

フェアトレードタウンなごや推進委員会について

文責 フェアトレードタウンなごや推進委員会事務局長

フェアトレード学生ネットワーク「328」代表

名古屋市立大学医学部5年 福島一彰

サポーター 原田さとみ

はじめに

現在、私たちの住んでいるこの世界には、地球規模の問題が載積しています。大量生産、大量消費によって発展してきた社会は、経済危機、化石燃料の枯渇、地球温暖化など地球規模の問題を生み出しました。

そして今、地球全体で「持続可能な社会」への取り組みがスタートしています。これは、今まで人類が歩んできた世界の大きな転換期にあることを表しているのではないのでしょうか。

このような現在の状況の中で、私たちフェアトレードタウンなごや推進委員会は、「フェアトレード」を切り口にこの問題に街全体で取り組んでいきたいと考えています。

「環境負荷の軽減」、「労働環境の改善」、「貧困対策」、「伝統技術への配慮」を掲げるフェアトレードによって取引された商品が、多くの人の日常に浸透することにより、私たちの生活が「購入」や「消費」によって世界の問題とつながっているということを知ってもらい、消費者が能動的に物の価値を判断するという消費活動に移行できるようにしていきたいと思っています。

フェアトレードとは？

フェアトレードは対話、透明性、敬意を基盤とし、より公平な条件下で国際貿易を行うことを目指す貿易パートナーシップです。弱い立場にある生産者や労働者に対し、**より良い貿易条件を提供し、かつ彼らの権利を守ることにより、持続可能な発展に貢献します。**フェアトレード団体は、生産者の支援、啓発活動、および従来の国際貿易のルールと慣行を変える運動に積極的に取り組んでいます。フェアトレード商品は、国際フェアトレードラベル機構(FLO)、World Fair Trade Organization(WFTO)によって認証された商品のことで、以下の条件を満たしていることが保証されています。

1. 賃金の安定と社会的発展
2. 生産者の技術の向上と生産物へのこだわり
3. 生産者の労働環境と労働条件を守る



認証を受けた商品は、下記に示すラベルを商品に貼ることで、フェアトレード商品として認識されます。また、このラベル認証を受けた商品以外にも、NGOなどが独自に行うフェアトレード商品もあります。

フェアトレードタウンとは？

フェアトレードタウンとは、市民、行政、企業、学校、などが協力し合い、街ぐるみでフェアトレードを応援する地域のことを言います。開発途上国の生産者・労働者が、貿易を通して生活や環境を改善していけるよう、個人や組織がともに協力してフェアトレードを推進していく運動です。世界 18 カ国、735 の自治体がフェアトレードタウン宣言をしており、421 のフェアトレードタウンが存在しています。(2009年11月13日時点)。

イギリスでは、下記の5つの基準を満たした地域を“フェアトレードタウン”として認証しています。

1. 地方自治体がフェアトレード促進の決議案を可決する。
2. 一連のフェアトレード製品がその地域内の店において購入できるようにする。
3. フェアトレード製品を不動産屋や美容院などの地域の職場や教会や学校といった地域組織へ浸透させること
4. マスメディアの関心を引き付け、地域住民からのキャンペーンへの支持を取り付けること。
5. フェアトレードを推進する運営委員会が設置され、フェアトレードタウンの名に相応しい活動が継続するように尽力しなければならない。

今現在、日本には、フェアトレードタウンとして認められた地域はありません。名古屋以外にも、熊本、国立、岩手、札幌などが、フェアトレードタウンに向けて動き出しています。

フェアトレードタウンなごや推進実行委員会

《outline》

「名古屋市をフェアトレードタウンに」という共通の目標の下、市民、学生、大学、行政、企業、NGO、NPO など立場の異なった人同士が集まり、「フェアトレード推進委員会」として月1回程度のミーティングを行います。そのミーティングの場で、名古屋におけるフェアトレードの現状把握と意見交換を行うとともに、フェアトレードタウンの推進に寄与するプロジェクトについて議論します。そこで共有された情報は、インターネットやメディアなどで情報発信を行っていきます。情報の共有によって、多くの方々にフェアトレードについて知ってもらい、また考えてもらうきっかけを提供します。また、この推進委員会の運営のために、学生や若い世代の社会人が主体となる「フェアトレードタウン推進委員会事務局」を設置し、フェアトレードタウンに関する情報の収集と、プロジェクト案の立案と改訂を行うことで、プロジェクトを実行へと移す役割を果たします。

このフェアトレードタウン推進委員会（事務局）が、名古屋におけるフェアトレードタウンの進行状況を把握し活動の軸となることで、フェアトレードタウンへの道を明確なものにしていきます。

《our vision》 “Think globally, Act locally” をおいしく、おしゃれに、気持ちよく。

「あなたにとっても、私にとっても、そして世界の裏側の人にとってもハッピーを共有できる街ってどんな街だろう？」
私たちが何気なく過ごしているこの街は、人や自然や文化などの色々な関わりの中で成り立っています。そして、私たちは、その街での「買い物」という行為を通して、顔の見えない誰かとつながっています。

「もし、何気なく買っているそのモノが、誰かの苦しみとともに生み出されているとしたら？」

「何気なく生活しているこの街がいろいろな人の犠牲の上に成り立っていると知ったら？」

フェアトレードは、これまでの貿易体系の背景で生じた「ヒト」と「モノ」との関係を見直すために考えられました。

私たちは、このフェアトレードを通して、世界と私たちのつながりを見直したいと考えています。

そして、“すべての人にとってやさしく、ハッピーを共有できる街”の姿をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

フェアトレードタウンという共通の目標の下、行政、企業、地域住民がつながり、話し合い、コラボレーションをすることによって新しい街作りの可能性を開いていきます。

街が変わることにより、もっともっと社会にとって良いものを選ぶ人が増えていく。そして、多くの人が海外だけでなく、日本の問題にも目をむけていく。“街のシステムの変化”によって価値観のパラダイムシフトを巻き起こします。

《merit》 名古屋市がフェアトレードタウンになることによって以下のようなメリットが期待されます。

『お買い物』のパラダイムシフト

1. 質が良く、安心・安全なものを“日常的に”購入することができる。
2. 「安さ」や「流行」ではない、買い物に対する多様な価値観を持つことができる。
3. 募金や寄付といった一方向の関係ではなく、物の選択を通して、国際貢献、地域貢献ができる。

『社会』のパラダイムシフト

1. お互いの価値観を認め合う社会への転換
2. 子供たちが多様な価値観（夢・希望）を持つことのできる社会の構築
3. 消費者が日本国内の産業発展（農業・林業・水産業など）を支える社会

個人、そして社会の価値観が変わることで、消費活動の変化を及ぼし、企業が、市民の価値観に合わせた生産活動を行うことで、社会にとって良い商品が生まれていくことが大きな目的になります。企業にとっては、企業の社会的責任を持続的に果たす、

最後に

今私たちは、人間の多様性を守れているのでしょうか？年間14万種の動物が絶滅していると言われてはいますが、今も毎日、飢餓や戦争などで亡くなる人たちがたくさんいます。フェアトレードはこのような現実には経済という視点からアプローチする方法です。そして、フェアトレードタウンは、今の世界の現実を踏まえた上で、自分たちの生活を見直し、より良い街を創造する取り組みです。もちろん環境負荷の軽減も行われていることから、生物多様性そのものにも配慮されています。自分たちの生活スタイルを変えることから考えてみませんか？このフェアトレードタウンへの取り組みは、持続可能で、生物多様性に配慮された新しい生活スタイルのきっかけになると思います。